



「バリアし隊」のみんなでアイデアを出し合って、良い柵ができて良かった。オオルリシジミのことを日本中の人に知ってほしいです。



田淵行男の愛した安曇野の自然を次世代へ

名誉市民・田淵行男（1905～1989）。1945年の疎開を機に、たぐい稀な蝶の宝庫であった安曇野に移り住み、昆虫の生態研究や自然写真の撮影にその生涯を捧げます。「自然から読み取り学ぶ知識がもっとも正しい」という独自の信念のもと、さまざまな作品や研究結果を残しています。

田淵行男が描いた昆虫細密画（オオルリシジミ *Shijimiaeoides divinus*）▶



～広がるオオルリシジミ保護の取り組み～



那須野さんから虫や植物の生態について聞く子どもたち

●穂高西小学校

穂高西小学校では、平成19年に、学校の中庭と近くにある久保田公園に地元の皆さんと一緒にクララを植え付けることからスタートし、「オオルリシジミ復活大作戦」を展開。植え付けたクララは、現在、立派な株となり、オオルリシジミやウラギンシジミ、ルリシジミなどの蝶が訪れ、卵や幼虫を児童たちが観察できる場所になっています。

オオルリシジミが教えてくれること

7月9日（木）4年1組の総合的な学習の時間を取材し、担任の高橋美保先生に話を聞きました。

多くの出会いにつながる

児童たちは、昨年から学校近くにある久保田公園で、ごみ拾い、水生昆虫や植物の観察などをしてきました。今年5月、児童たちと久保田公園に行った際に、13年前にクララを植えた地元の方の一人、丸山潔さんに出会いました。偶然には重なり、オオルリシジミの姿も見ることができました。丸山さんからクララや蝶について詳しく教えてもらったことで興味を持ち、4年1組はオオルリシジミを守る活動をすることに決めました。

その後、堀金支所で講演会と苗の配布が行われることを知り、児童たちの中には自主的に参加し、クララを家で植えた子もいました。その際、主催者代表の百瀬新治さんと出会うことができました。

自ら考え、強く願う

後日、百瀬さんが小学校にクララを届けてくださり、活動に対する想いも聞かせてもらいました。児童たちは、もらった苗を新たに植え、その小さな苗を育てるために自分たちに何ができるかを考

え、4つのグループができました。みんなで共有する大切な願いは、これまでオオルリシジミを保護するために頑張ってきた先輩や先生、地元の皆さんの想いや活動を「引き継ぎたい」ということです。

地域の良さに気付く

穂高西小は北アルプスと田園が創り出す安曇野らしい景観に恵まれた場所に位置しますが、子どもたちはきっかけがないとなかなか自然と触れ合うことができません。オオルリシジミをきっかけに、色々なモノやコトを見たり調べたりしながら、自分たちにできることを考え、地域の誇りや自然環境を未来につないでいってほしいと思います。



4年1組担任 高橋 美保 先生

日常の中で 見守り続ける

私たちの会では、「岩原のタカラ」をキーワードに身近な郷土の歴史や自然などを楽しく学び、岩原の人たちが元気よく自信を持って暮らしていくことを目標に活動しています。

昔は、クララも田んぼの周りに生えていた覚えがありますが、いつの間にか必要のないものとして刈り取っていました。かつて岩原にあった植物を失ってしまった責任は私たちにもあるのではないかという思いから、会の活動の一つとしてクララを育て始めました。

私ができることは、ごくごく普通の生活の工夫や配慮によって参加できる範囲ですが、植えられたクララの苗は大きく葉を茂らせるまでに成長しています。今年もオオルリシジミが飛来し、産み付けた卵から幼虫が順調に育つ姿を見ることができました。保護するという感覚より、日常生活の中で蝶の成長を楽しみに見守りながら、活動を続けています。

●岩原の自然と文化を守り育てる会



代表 百瀬 新治 さん

私たちの暮らしと共に 安曇野に息づく小さな生きものが住める環境を

この蝶の幼虫の食草クララの壊滅がそのままこの蝶の衰退につながったのは避けることのできない宿命…（中略）
しかし、この頃でも、どうかすると山沿いの小径で時折、生き残ったクララを見つけることがあるし、そしてさらに好運に恵まれると、美しい瑠璃色の翅の燦きに巡りあうかもしれない。

『山の絵本 安曇野の蝶』
「草原の青い星」とでもいい美しい大型のシジミチョウだけに、私には愛惜一入のものがある。
この蝶の飛び交った昔の安曇野の初夏は、まさに蝶の楽園といってよいほどの蝶相を誇っていた。

1983年に出版された田淵行男の著書の中で、オオルリシジミについて、次のように綴られています。（一部抜粋）

田淵行男は環境の変化や人の行為によって自然が失われることに警鐘を鳴らしていました。「一度失ったものを取り戻すことは、簡単ではありません。」

「ここ安曇野で、あなたが残したいものは？ さあ、できることから始めてみませんか。」

